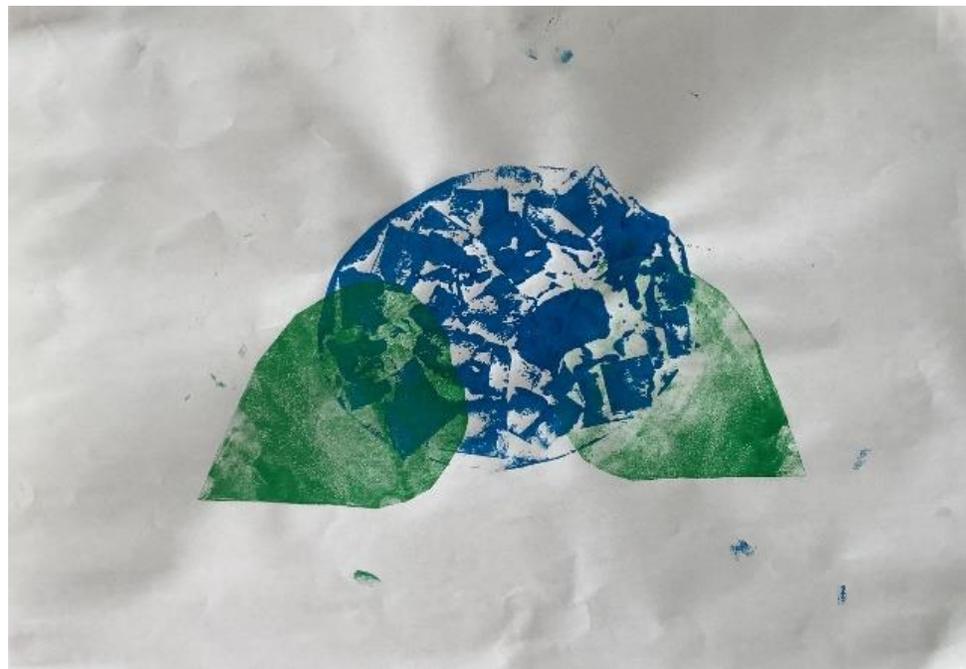


# 令和6年度（2024年度） 特別支援教育教育課程改善の手引



「あじさい」



「ひまわり」

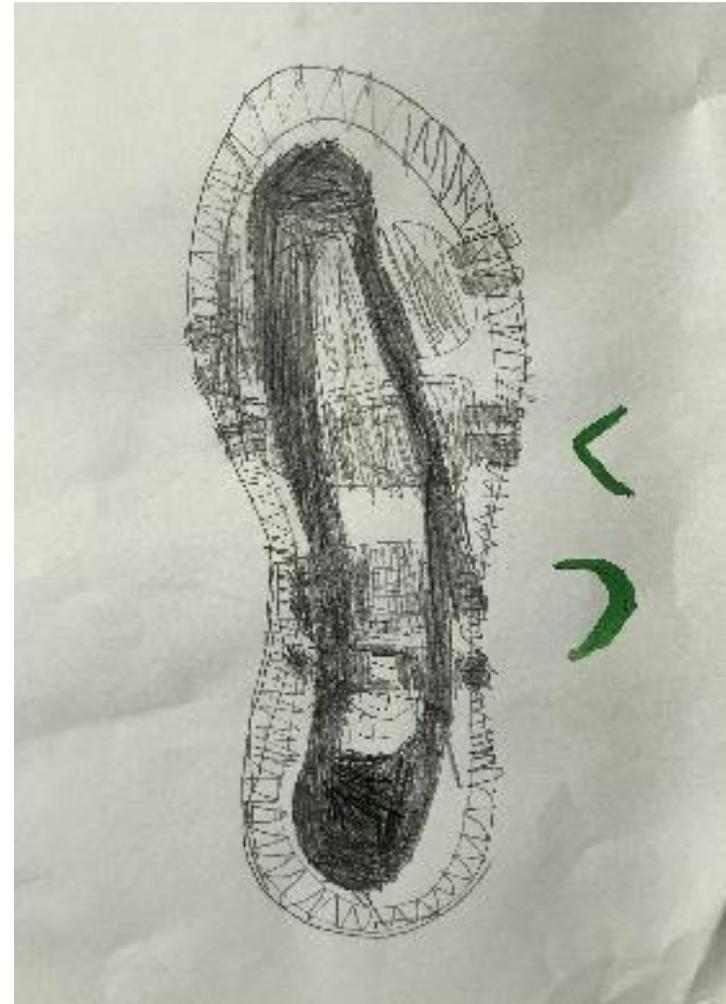
令和6年12月

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課

# まえがき



「三日月」



「靴」

# 目次

## 1章 総論

本手引の概念図	・・・ 6
これからの学校に求められていること	・・・ 7
令和の「日本型学校教育」	・・・ 8
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	・・・ 9
個別最適な学び	・・・ 10
協働的な学び	・・・ 11
特別支援学校等における個別最適な学びと協働的な学び	・・・ 12
子どもたちが自主的・自発的に学ぶために	・・・ 13
個別最適な学び・協働的な学びと授業改善	・・・ 14
三つの柱と個別最適な学び、協働的な学び	・・・ 15
ICT活用に関する基本的な考え方	・・・ 16
新たなICT環境や先端技術の活用	・・・ 17

## 2章 事例

事例1 視覚障がい（特別支援学校小学部）	・・・ 21
事例2 視覚障がい（特別支援学校中学部）	・・・ 24
事例3 聴覚障がい（特別支援学校小学部）	・・・ 27
事例4 知的障がい（特別支援学校小学部）	・・・ 30
事例5 知的障がい（特別支援学校高等部職業学科）	・・・ 33
事例6 肢体不自由（特別支援学校小学部）	・・・ 36
事例7 病弱・身体虚弱（小学校特別支援学級）	・・・ 39
事例8 知的障がい（小学校特別支援学級）	・・・ 42
事例9 自閉症・情緒障がい（小学校特別支援学級）	・・・ 45
事例10 言語障がい（通級による指導）	・・・ 48
事例11 学習障がい（通級による指導）	・・・ 50
事例12 注意欠陥多動性障がい（通級による指導）	・・・ 52

## 3章 資料

本手引に関連する資料	・・・ 55
------------	--------

# 本手引の活用について

第1章 総論



第1章の解説動画

## 【校内研修（1時間）での活用例】

第1章総論の解説動画を視聴

25分

第2章事例4の解説動画を視聴

5分

第2章事例5の解説動画を視聴

7分

単元指導計画の改善に向けた協議

30分

事例3 聴覚障がい（特別支援学校 小学部 第4学年）  
国語科 「ごんぎつね」



本事例の解説動画

1 単元の目標及び指導計画

(1)言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる  
(2)文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる  
(3)登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しようとしている

時間	学習活動	主な内容
1	学習の見通しをもつ	・ リード文から物語を想像する ・ 学習課題を設定し、学習計画を立てる
2	初発の感想をもつ	・ ごんについて表す言葉を考える
3-8	登場人物の行動や気持ちをまとめる	・ 登場人物の言動から、その人物の性格や境遇、気持ちを考える
9	物語の結末について感想をまとめる	・ 「感想の例」を参考に、自分の感想をまとめる ・ Googleスライドの様式に感想を記入する
10-11	感想について、グループで読み合う	・ 感想の変化などについて、遠隔合同授業で意見を交流する ・ 交流を通して気付いたことをまとめる
12	「言葉を分類しよう」を読む	・ 「ごんぎつね」に出てきた言葉を分類する

単元構成の工夫

ICTを活用して新出語句や難語句、関連する情報などについて調べ、本文の叙述を基に思考できるようにする

国語科での合同遠隔授業を設定し、オンラインで児童がお互いに意見を交流し、考えを深めることができるようにする



第1章の解説動画

# 第1章 総論



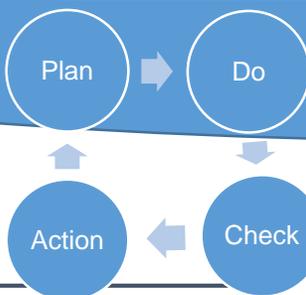
「桜」



# 資質・能力の育成

## 授業

令和3年度  
教育課程編成の手引



## 学習評価

令和4年度  
教育課程編成の手引



授業改善

## 主体的・対話的で深い学び

令和2年度  
教育課程編成の手引



教師主体（主導）の授業から  
子ども主体の授業への転換

一体的に充実

### 個別最適な学び

- 指導の個別化  
一人一人に応じて、指導方法や教材、学習時間等を柔軟に設定する。
- 学習の個性化  
一人一人に応じて、学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。

- <ポイント>
- ① 往還的な視点
  - ② 単元デザイン
  - ③ ICT活用

### 協働的な学び

多様な他者と協働しながら、一人一人の良い点や可能性を生かし、異なる考え方が組み合わせりより良い学びを生み出す。

令和6年度  
教育課程編成の手引

※ 自立活動

令和5年度  
教育課程編成の手引



# これからの学校に求められていること

これからの学校には、・・・（中略）・・・一人一人の児童又は生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」2017年

「教師が何を教えたか」ではなく

資質・能力

- ・ 知識及び技能
- ・ 思考力、判断力、表現力等
- ・ 学びに向かう力、人間性等

子どもが自身の価値や可能性に気づき、自立に向けて主体的に学習できるよう支える

「子どもたちが何を学んだか」という子ども主体の授業づくりが重要

一人一人の子どもを主語にする取組

# 令和の「日本型学校教育」

## 従来の「日本型学校教育」

学校が学習指導のみならず、生徒指導等の面でも主要な役割を担い、様々な場面を通じて、子どもたちの状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子どもたちの知・徳・体を一体で育む。

### 一律一様の教育

- ・みんな一緒に
- ・みんな同じペースで
- ・みんな同じことを

## 令和の「日本型学校教育」

全ての子どもたちの可能性を引き出す、**個別最適な学び**と**協働的な学び**の実現

### 多様性を重視した教育

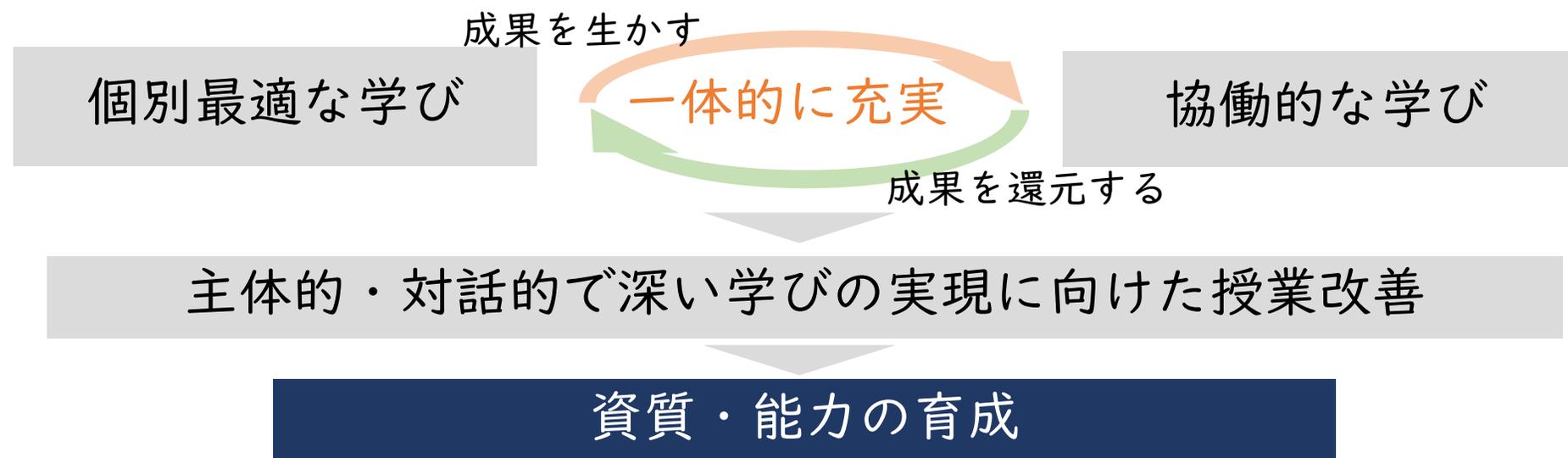
- ・それぞれのペースで自分の学びを
- ・対話を通じた「納得解」の形成

中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」2021年

内閣府教育・人材育成ワーキンググループ「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」2022年

# 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

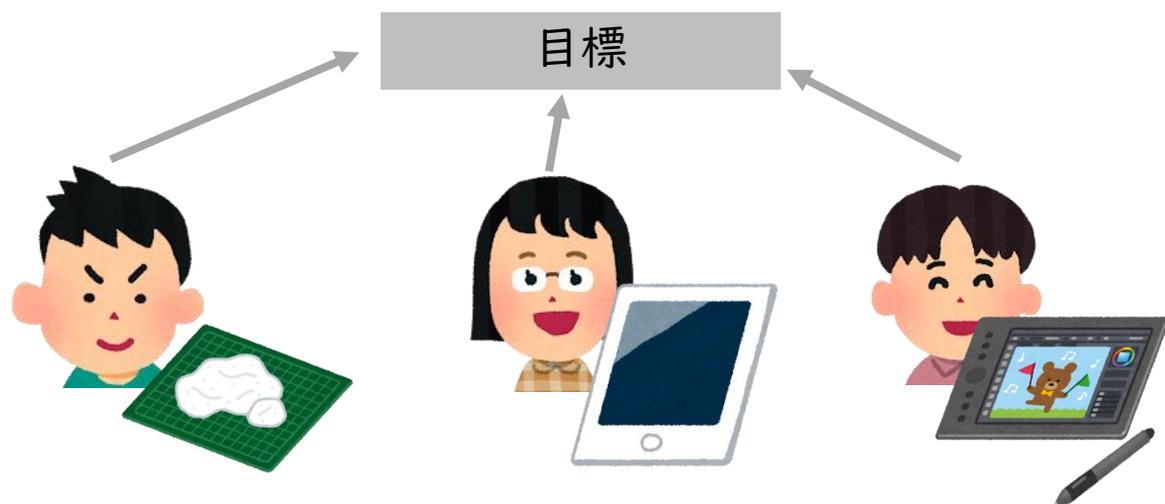
2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。ここでは、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。



# 個別最適な学び

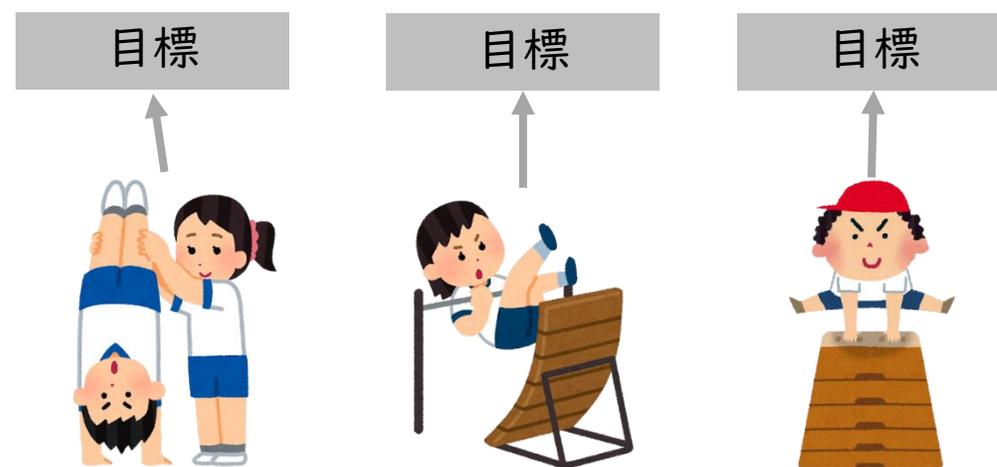
「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念であり、児童生徒の学習内容の確実な定着とともに、学習を深め、広げることにつながる。

## 指導の個別化



子ども一人一人に応じて、  
指導方法や教材、学習時間等を柔軟に設定する

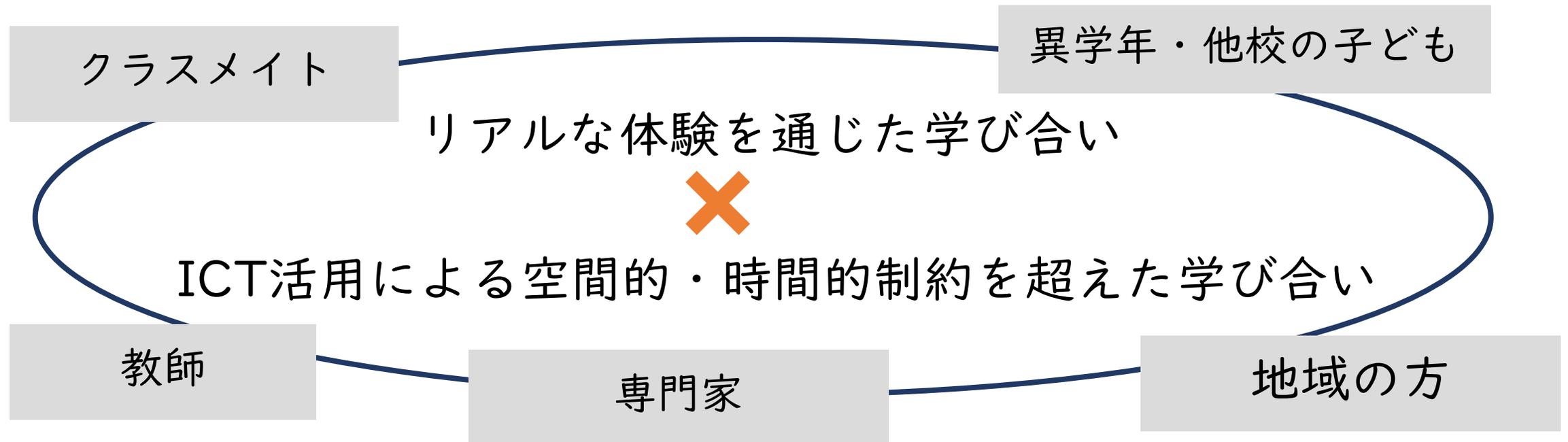
## 学習の個性化



子ども一人一人に応じて、  
学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する

# 協働的な学び

探究的な学習や体験的な学習活動などを通じ、児童生徒同士や地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、児童生徒一人一人の良い点や可能性を生かし、異なる考え方が組み合わせさり、より良い学びを生み出すことにつながる。



# 特別支援学校等における個別最適な学びと協働的な学び

教師主導の授業

資質・能力を育成するため

子ども主体の授業

自立活動の指導が重要

令和5年度  
教育課程編成の手引



- ・子どもたちが自分で取り組みやすい学習内容、方法、時間等を選択できるように、ICTを含め、様々な学習方法等を提供する。
- ・子どもたちが自分の意見や考えを伝えることができるよう、教師の言葉掛けなどを工夫する。

この方法だと分かりやすい。



この学習は得意！

もっと知りたい！  
もっとできるようになりたい！

# 子どもたちが自主的・自発的に学ぶために

## 子どもたちに適切に伝えること

### 何を学ぶか

- ・ 学習内容と生活や社会との結び付き
- ・ 単元（題材）のねらいと学習内容
- ・ 本時のねらいと学習内容 など

### どのように学ぶか

- ・ 単元（題材）の指導計画
- ・ 使用する教材 など

### 何ができるように なるか

- ・ 単元（題材）の評価規準
- ・ 本時の評価規準 など



※ 「学習の個性化」として、子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する際は、教科等の特性を踏まえた上で、設定しやすい授業から取組を進めていくことが大切です。

# 個別最適な学び・協働的な学びと授業改善

知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等の涵養が偏りなく実現されるよう、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら**、児童又は生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」2017年

個別最適な学びと  
協働的な学びの一体的な充実

主体的・対話的で  
深い学びの実現

令和2年度  
教育課程編成の手引



一単位時間ではなく、**単元や題材など内容や時間のまとまりを**  
どのように構成するかというデザインを考えることが重要

# 三つの柱と個別最適な学び、協働的な学び

(略) 児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」2017年

## 指導のポイント

- 学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、発達の段階に配慮しながら指導すること
- 多様な学習の進め方を実践できる環境を整えること

# ICT活用に関する基本的な考え方

- 個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、ICTは必要不可欠
- これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげることが必要
- PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要

中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」2021年

子どもが  
活用する視点

教師が  
活用する視点

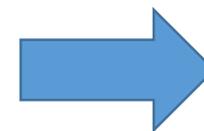
日常的に活用

# 新たなICT環境や先端技術の活用

- ① 学習指導要領の着実な実施
- ② 学びにおける時間・距離などの制約を取り払うこと
- ③ 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別に最適な学びや支援
- ④ 可視化が難しかった学びの知見の共有やこれまでにない知見の生成
- ⑤ 学校における働き方改革の推進
- ⑥ 学校の臨時休業等の緊急時における教育活動の継続

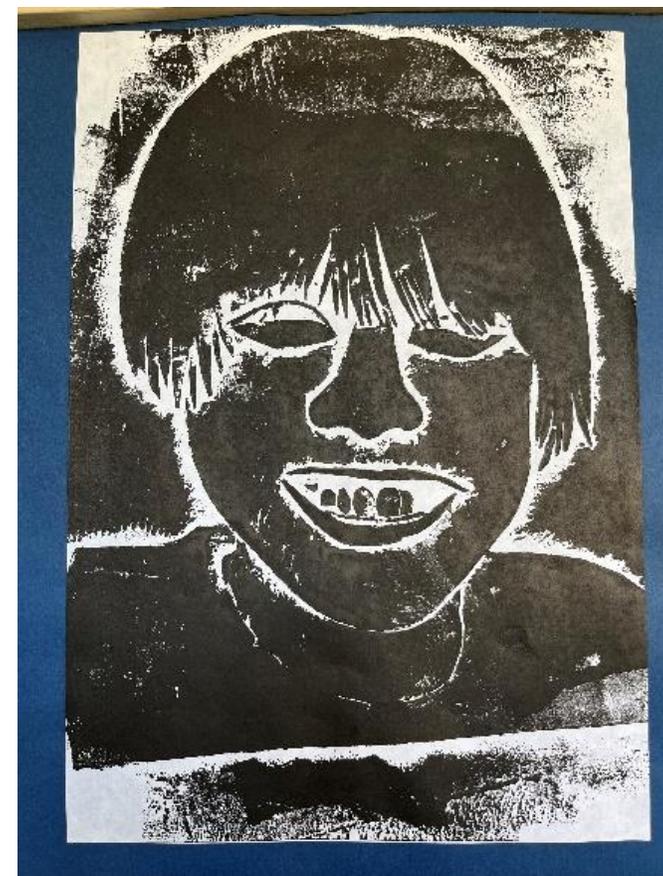
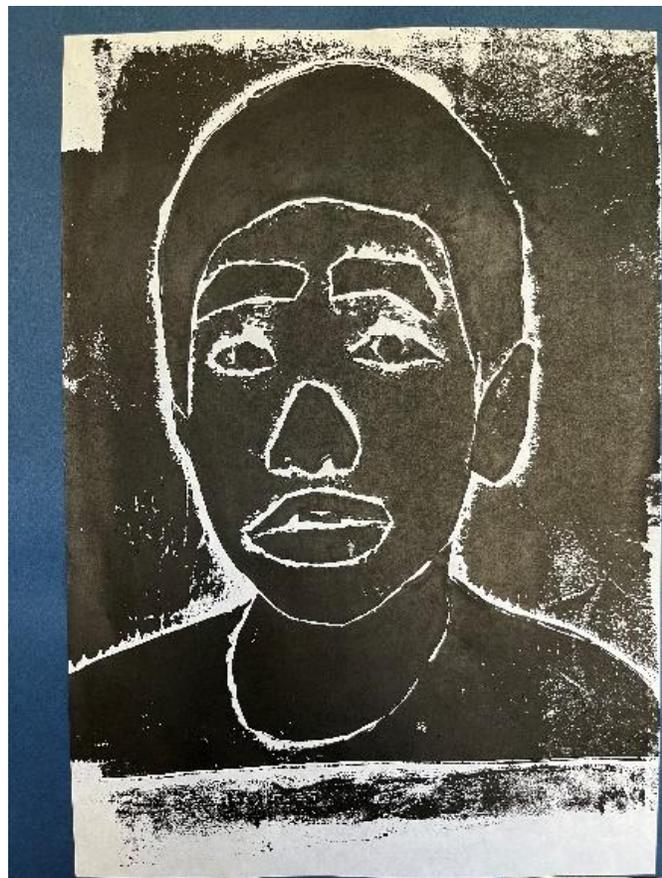
中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」2021年

ICT教育推進課Webページ



のほか、多数の情報を掲載

## 第2章 事例



「わたしの顔」

# 事例について

事例3 聴覚障がい（特別支援学校 小学部 第4学年）  
国語科 「ごんぎつね」

1 単元の目標及び指導計画

(1)言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる  
(2)文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる  
(3)登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像しようとしている

時間	学習活動	主な内容	単元構成の工夫
1	学習の見直しをもつ	・ リード文から物語を想像する ・ 学習課題を設定し、学習計画を立てる	ICTを活用して新出語句や難語句、関連する情報などについて調べ、本文の叙述を基に思考できるようにする 国語科での合同遠隔授業を設定し、オンライン上で児童が互いに意見を交流し、考えを深めることができるようにする
2	初発の感想をもつ	・ ごんについて表す言葉を考える	
3-8	登場人物の行動や気持ちをまとめる	・ 登場人物の言動から、その人物の性格や境遇、気持ちを考える	
9	物語の結末について感想をまとめる	・ 「感想の例」を参考に、自分の感想をまとめる ・ プレゼンテーションソフトの様式に感想を記入する	
10-11	感想について、グループで読み合う	・ 感想の変化などについて、遠隔合同授業で意見を交流する ・ 交流を通して気付いたことをまとめる	
12	「言葉进行分类しよう」を読む	・ 「ごんぎつね」に出てきた言葉进行分类する	

各事例の説明動画（YouTube）にアクセスできる二次元コードです。

単元の目標として、(1)は知識及び技能、(2)は思考力・判断力・表現力等、(3)学びに向かう力、人間性となっています。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と関連のある目標を太文字で示しています。

単元の指導計画で塗りつぶしている部分は、④本時の学習展開で具体的な内容を示しています。

単元の指導計画を作成するに当たって、工夫している点を示しています。

単元において「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に関するポイントを説明しています。

単元で活用しているICTの情報を掲載しています。二次元コードから関係するアプリ等にアクセスすることができます。

本時で行っている「個別最適な学び」や「協働的な学び」の具体的な内容等を掲載しています。

2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

個別最適な学び

デジタル教科書や一人一台端末を活用し、新出語句や難語句、関連する情報などについて、児童が自身の理解の程度に応じて即時的に意味調べや画像検索を行い、本文を基に思考するために必要な情報を収集できるようにする

協働的な学び

同学年の児童が在籍する学校同士で遠隔合同授業を実施し、クラウド上に保存した感想を読み合うほか、ビデオ通話アプリを活用し、音声や文字、指文字、手話など多様なコミュニケーションの方法を選択・活用して話し合い、対話を深めることができるようにする

3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
新出語句や難語句の意味調べ及び画像検索	叙述を基に、登場人物の性格や境遇、気持ちを考える	ブラウザアプリ 画像検索機能	
自身の感想の記入とグループ間での共有	記入例を基に、自分の感想をまとめる	共同編集ツール	
ビデオ通話アプリを活用した遠隔合同授業	感想の変化などについて、意見を交流する	Google Meet等のビデオ通話アプリ	

4 本時の学習展開（10-11時間／全12時間）

① 本時のめあてを確認する

② 物語の結末について、共同編集ツールに記入した感想を読み合う

③ 初発の感想と変化したところや、疑問に思ったところなどについて話し合う

④ 交流を通して気付いたことをまとめる

⑤ 本時の学習を振り返る

協働的な学び

- 共同編集ツール上に記入した感想を各自の端末で共有し読み合う
- コミュニケーションの方法を適切に選択・活用して話し合い、多様な見方・考え方に触れたり、他者の意見から考えを深めたりする
- 他の児童と自分の感想の共通点や相違点などに着目するなど、話合いの着眼点を明らかにして、互いの話を聞いたり、質問したりする

# 事例について（通級による指導）

「通級による指導」の事例は、自立活動の指導に関する内容となっています。

各事例の説明動画にアクセスできる二次元コードです。

スライド1枚目は、個別の実態や課題、指導目標や指導内容を示しています。

「指導内容」の中で、塗りつぶしているものをスライド2で詳しく解説しています。

左枠は通級による指導での「自立活動の指導」の具体的な指導内容です。

右枠は自立活動の指導と通常の学級での授業との関連について説明しています。

下枠は通級による指導でのICTの活用事例です。

事例10 言語障がい（小学校 通級による指導 第2学年）  
自立活動「語音の弁別や発音に課題のある児童への指導」

1 児童Aの実態や自立活動の指導目標等について

実態	<ul style="list-style-type: none"><li>カ行からタ行、ガ行からダ行への置換が一貫した発音の誤りとして見られる</li><li>置換が見られる語音を中心に、聞き間違いや書き間違いが見られる</li><li>意欲的に口の体操を行うが、人に見られていると照れてしまい頬や口の動きが小さくなる</li><li>通級による指導の時間や家庭では、大人を相手に自ら話し掛ける様子が見られる</li><li>自分の発音の誤りを自覚していることに加え、友達などから指摘されることもあるため、学級の中では、自ら話し掛けることをためらう様子が見られる</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>語音の弁別に課題が見られ、それによる聞き間違いや書き間違いが生じている</li><li>特定の語音について、誤った発音が定着している</li></ul>
指導目標	<ul style="list-style-type: none"><li>音の聴覚的な認知力を高め、正確な語音弁別につなげる</li><li>構音器官の運動機能を高めるとともに、正しい構音運動の仕方を身に付ける</li></ul>
指導内容 コミュニケーション(1)(2)	<ul style="list-style-type: none"><li>正しい音と誤った音の違いを比較し、判断する</li><li>カ行音の適切な構音の仕方を理解し、正しい構音動作を身に付ける</li><li>楽しく話す経験を通して、コミュニケーションの意欲を高める</li></ul>

2 通級による指導と通常の学級での指導の関連

通級による指導

自ら課題を選択して取り組む語音弁別

- 2音節、語頭音にある目的となる音と誤った音とを聞き分ける学習を行った（正誤弁別）
- タブレット端末アプリで苦手とする語音を選択したり、自ら繰り返したりできるようにした。
- 遊びやゲームの要素を取り入れながら、意欲的に取り組んだ

通常の学級

発音や話し方の振り返りのための録音

- 振り返りができるよう、音声録音機能で録音したり、音声認識ソフトを活用したりしながら、自分の発音や話し方を録音した（比較・照合）

3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど
語音の弁別 発音練習全般	通級指導教室 家庭学習	発音やことばの学習を支援するアプリ
発音や話し方の確認	通常の学級 通級指導教室	音声録音機能 音声認識ソフト



### 1 単元（題材）の目標及び指導計画

- (1) 発芽や成長の様子に着目して、それらに関わる条件を整えながら、植物の発芽と成長の条件について理解することができる
- (2) 植物の発芽や成長について、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、問題解決することができる
- (3) 植物の発芽や成長について、仮説を基に解決方法を発想する力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を養おうとする

時間	学習内容	主な内容
1	種子が発芽する条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発芽した種子と未発芽の種子の観察（触察、ICTの活用）や発芽までの過程（触察、ビデオ視聴）を知り、課題に対する見通しをもつ</li> <li>・仮説の立案と仮説の発表</li> </ul>
2	実験①	・児童の仮説を検証する実験（土、外で育てる）
3-4	実験結果の整理（再度）仮説の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果の整理と発表</li> <li>・発芽する条件を見直しと仮説の再案</li> </ul>
5	実験②	・児童の仮説を検証する実験
6	まとめ	・実験結果の整理と発表とまとめ
7	実験③	・発芽の条件にそった確かめ実験
8-9	種子の発芽と養分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種子が発芽するときの子葉の働きと養分の考察</li> <li>・まとめ</li> </ul>
10-15	植物が成長する条件	・植物が成長する条件の考察と実験とまとめ

視覚障がいへの配慮

#### 単元構成の工夫

発芽したインゲン豆と種袋に入ったインゲン豆の種子を触察や拡大などの方法で観察し、イメージしたことを言語化することで、発芽の状況に関する課題をつかめるようにする

個人思考と対話を繰り返しながら、予測と確かめの実験を行い、発芽の条件について考えることができるようにする

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

児童が、自立活動で身に付けた触察や補助具の活用技術を活かしながら、種子を触察したり、ICTやルーペなどを活用して観察したりするなど、一人一人の児童が異なる方法で学習を進める（指導の個別化）。また、「もっと観察したい」などの希望に応じて学ぶ機会を提供する（学習の個性化）などして、発芽の条件について仮説を立てる。

### 協働的な学び

児童が観察して気付いたことを言語化し、さらに、インゲン豆を手元に置いて、発表者の気付きを確認しながら聞くなど、双方向の対話で深めながら、植物の発芽の条件について予想する  
また、児童一人一人が立てた発芽の条件の仮説や実験結果について、さらに対話をするすることで、全員で発芽の条件について検討する

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
・資料の共有	遠隔合同授業	Zoom	
・写真や動画などの撮影	観察・記録	カメラ機能	
・情報共有	観察	ロイロノート・スクール	

## 4 本時の学習展開（4時間／全15時間）

1	本時の目標と単元における本時の扱いの確認
2	【個】仮説の立案
3	【協】仮説の発表と検討 Aさん：水だと予想した。 B・Cさん：肥料と予想した。 Dさん：温度だと予想した。
4	【個】再思考 Bさん：Dの考えから温度に条件を見直した。 Cさん：Aの考えから水に条件を見直した。 Dさん：教師の言葉掛けから空気を条件に加えた。
5	【協】仮説の再検討 肥料を条件とすることをやめ、水と温度と空気を条件にした。
6	学習の振り返りと次時の見通し

○ 発芽の条件について、対話を通して3つの条件を立案する。

- ・ 実験①の実験容器や種子を観察する。  
※児童は、触察や拡大写真など自己に合った観察方法を選択し、条件を考える。
- ・ 4年生の既習単元「季節の植物」から条件を考える。
- ・ 人間が生きるために必要なことというヒントから条件を考える。

「実験①の発芽したインゲン豆には水分がついていたから水だと思う。」



「畑には、肥料をまくから肥料だと思う。」



「でも、実験①で土があっても芽がでなかったよ。」



「4年生の授業で季節の植物について学んだけど、あたたかくなって花が咲いたから温度じゃない。」

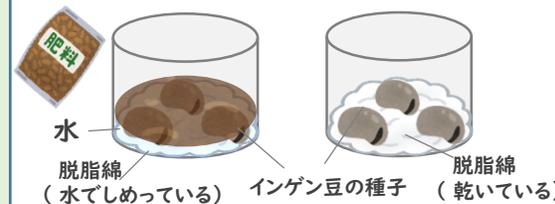


「人間は、呼吸をするから、呼吸には、空気が必要だ。」

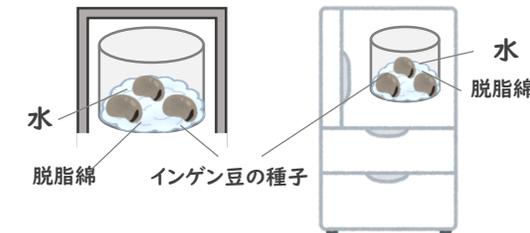
A：水をあたえる B：水をあたえない



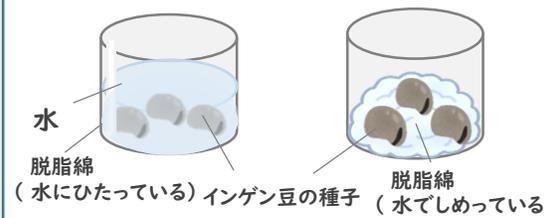
A：肥料を与える B：肥料を与えない



A：あたたかい(20℃) B：冷たい(5℃)



A：種子を水にしずめる B：種子が空気にふれる





### 1 単元（題材）の目標及び指導計画

- (1) 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や育成活動等に関わる基礎的な技術について知る
- (2) 調べ学習で得た情報等について伝え合い、課題解決に向けて作業で取り組む内容を考える
- (3) ものづくりについての興味・関心を高め、意欲や見通しもって取り組もうとする

時間	題材	主な内容
1-2	学校周辺の滑り止め砂置き場の様子確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内会長からの依頼を受けて現地調査</li> <li>・ 滑り止め砂置き場の現状確認</li> <li>・ 製作する目的の確認</li> </ul>
3-4	砂置き場づくりに向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査結果の確認</li> <li>・ デザインの検討</li> <li>・ 使用する道具の形や使い方を言語化し確認</li> </ul>
5-10	砂置き場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 砂置き場づくり</li> <li>・ 自身が取り組んだ内容の交流</li> </ul>
11-12	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製作した砂置き場の設置と町内会長への報告</li> </ul>

### 単元構成の工夫

砂置き場を直す際に、どのような点に気をつけるか、生徒たちが工夫できるようにする

実際に、町内会長から依頼を受けることで、生徒が学習に取り組む目的を自覚し、主体的に取り組めるようにする

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

生徒一人一人が見え方の状態に合わせて点字図書や視覚補助具、音声や動画等のICT機器を選択し見えやすい環境を整え、調べ学習を基に、自身が興味・関心を持った内容を参考に、砂箱の形状や用途について知る。

### 協働的な学び

生徒が砂箱の作りたいイメージについて、思いや考えを伝え合い、多様な視点からの情報を共有しながら、砂箱のデザインの合意形成を図るために話し合いを進める。

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
動画、画像等を活用した記録	取組の記録	カメラ機能	
動画、音声、記述等を選択した記録	調査結果のまとめづくり	PowerPoint	
発表用の資料 家庭での学習成果の報告	交流での発表や家庭への報告	Google Classroom	

## 4 本時の学習展開（3・4時間／全12時間）

1 調査

2 調査結果の報告

3 デザインの検討

4 道具の確認

5 次時に向けて

- 一人一人の見え方に応じた調査の記録方法を選択する
  - ・生徒自身の見え方に合わせて動画等映像や音声、写真などの記録方法を選択し、調査の結果を整理する。

- 調査で得た情報を交流し、景觀に合わせた砂箱のデザインを検討する
  - ・調査の結果を聞き、様々な視点から砂箱の用途や地域の景觀に合うデザインを確認する。
  - ・砂箱の目的に合わせ、誰もが使いやすくなるような表示方法の工夫を検討する。

個別最適な学び



協働的な学び





### 1 単元の目標及び指導計画

- (1) 言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる
- (3) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しようとしている

時間	学習活動	主な内容
1	学習の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リード文から物語を想像する</li> <li>• 学習課題を設定し、学習計画を立てる</li> </ul>
2	初発の感想をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ごんについて表す言葉を考える</li> </ul>
3-8	登場人物の行動や気持ちをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 登場人物の言動から、その人物の性格や境遇、気持ちを考える</li> </ul>
9	物語の結末について感想をまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「感想の例」を参考に、自分の感想をまとめる</li> <li>• プレゼンテーションソフトの様式に感想を記入する</li> </ul>
10-11	感想について、グループで読み合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 感想の変化などについて、遠隔合同授業で意見を交流する</li> <li>• 交流を通して気付いたことをまとめる</li> </ul>
12	「言葉を分類しよう」を読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「ごんぎつね」に出てきた言葉を分類する</li> </ul>

### 単元構成の工夫

ICTを活用して新出語句や難語句、関連する情報などについて調べ、本文の叙述を基に思考できるようにする

国語科での合同遠隔授業を設定し、オンラインで児童が互いに意見を交流し、考えを深めることができるようにする

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

デジタル教科書や一人一台端末を活用し、新出語句や難語句、関連する情報などについて、児童が自身の理解の程度に応じて即時的に意味調べや画像検索を行い、本文を基に思考するために必要な情報を収集できるようにする



### 協働的な学び

同学年の児童が在籍する学校同士で遠隔合同授業を実施し、クラウド上に保存した感想を読み合うほか、ビデオ通話アプリを活用し、音声や文字、指文字、手話など多様なコミュニケーションの方法を選択・活用して話し合い、対話を深めることができるようにする

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
新出語句や難語句の意味調べ及び画像検索	叙述を基に、登場人物の性格や境遇、気持ちを考える	ブラウザアプリ 画像検索機能	
自身の感想の記入とグループ間での共有	記入例を基に、自分の感想をまとめる	共同編集ツール	
ビデオ通話アプリを活用した遠隔合同授業	感想の変化などについて、意見を交流する	Google Meet等のビデオ通話アプリ	

## 4 本時の学習展開（10-11時間／全12時間）

① 本時のめあてを確認する

② 物語の結末について、共同編集ツールに記入した感想を読み合う

③ 初発の感想と変化したところや、疑問に思ったところなどについて話し合う

④ 交流を通して気付いたことをまとめる

⑤ 本時の学習を振り返る

○ 共同編集ツール上に記入した感想を各自の端末で共有し読み合う

○ コミュニケーションの方法を適切に選択・活用して話し合い、多様な見方・考え方に触れたり、他者の意見から考えを深めたりする

○ 他の児童と自分の感想の共通点や相違点などに着目するなど、話し合いの着眼点を明らかにして、互いの話を聞いたり、質問したりする

協働的な学び

学校名	氏名	物語の結末についての感想
○△○学校	△△ △△	ごんの気持ちが兵十に伝わらなくて、かわいそうだった。
△△△学校	□□ □□	兵十は、ごんをうってしまっ、失敗したとおもう。
□□□学校	○○ ○○	お互いに思っていることは言葉にして伝えたいと思った。
○△○学校	** **	ごんも兵十も、気持ちがすれちがって悲しいと思った。
▽▽▽学校	○○ ○○	ごんはいたずらぎつねではなくて、やさしいぎつねとおもった。

※ここでは横書きで記入することとしています





1 単元（題材）の目標及び指導計画

- (1) 身近な用具を使い、描いたり、色を塗ったりすることができる
- (2) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くことができる
- (3) 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを感じるとともに、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする

単元構成の工夫

時間	題材	主な内容
1	校外学習の振り返り	・ 校外学習で行った水族館の振り返り
2-3	作品づくり①	・ 生き物の制作
4-5	作品づくり②	・ 生き物の制作 ・ 作品を組み合わせみんなで鑑賞
6-7	作品づくり③	・ 生き物の制作 ・ 作品を組み合わせみんなで鑑賞
8	みんなの水族館	・ 玄関ホールへの飾り付け
9	感想を聞こう	・ 保護者や地域の人たちからの感想を聞く

校外学習との関連を図ることにより、児童が題材のイメージを具体的にもち、表現できるようにする

表現→鑑賞→表現の繰り返しの中で、自分の作品のよさや他者の表現の面白さに気付けるようにする

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

表現したい作品を作るまでの過程として、使用する用具を選択し、表し方を工夫しながら主体的に作品づくりに取り組む



### 協働的な学び

大型水槽に見立てた水槽に、児童一人一人の作品を貼り付け、友達の作品に直接手で触れながら色や形の違いを感じることを設定し、友達の作品に触れ、自分の作品を見直すことにつなげる

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
タブレット画面の投影	振り返り	・ プロジェクター	
撮影した画像の共有	友達が撮影した海の生き物を見る	・ クラウド機能	
二次元コードを活用したアンケートの実施	保護者や地域の人感想を聞く	・ Google Forms	

## 4 本時の学習展開（6時間／全8時間）

- 1 本時の学習内容と目標の確認
- 2 前回までに取り組んだ作品の確認
- 3 海の生き物づくり
- 4 水槽に作品を貼り付けて、みんなで鑑賞
- 5 本時の振り返り

○ 児童が作品づくりの過程を楽しむ

- ・ 水族館で撮影した画像から新しく作りたい生き物を選んだり、作っていた作品を作り替えたりする
- ・ 用具の特性を理解して色を塗り替えることが目標となる児童や、用具の使用になれることが目標となる児童に応じて、手立てを講じる

個別最適な学び



# 事例5 知的障がい（特別支援学校 高等部 職業学科 第2学年）

## 総合的な探究の時間「地域活性プロジェクト」



本事例の解説動画

### 1 単元（題材）の目標及び指導計画

地域の高校生や生産者、企業等との関わりを通して、地域がもつ魅力や価値、地域が抱える課題に気づき、課題解決に取り組む中で、地域や社会の形成者としての自覚をもち、進んで社会に関わろうとする

時間	題材	主な内容
1	調べ学習	・ 地域の特色（人口、産業、地域資源）
2-3	情報収集	・ インタビュー（生産者、農協、農業高校）
4-5	計画の立案	・ 地域課題（人口減少、農業の担い手不足） ・ 地域活性プロジェクトの計画
6	農業高校との交流	・ プロジェクト案の検討
7-8	計画の推進①	・ 特産品を使った加工食品案の作成
9-10	計画の推進②	・ インタビュー（生産者、農協、農業高校）
11	試食会	・ 加工食品のプレ発表
12-14	製品化に向けて	・ 加工食品の改良、PR活動
15	振り返り	・ 地域活性プロジェクトの振り返り

#### 単元構成の工夫

農業高校や生産者、農協職員など多様な人と関わる場を設定し、考えを広げられるようにする

「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のプロセスを経て地域の課題解決に取り組むようにする

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

産業や生活、特産等の地域の特色について、自身の興味・関心に応じて調べるテーマや方法を選択しながら情報を収集し、現状や課題を理解することで、問いや問題意識をもてるようにする



### 協働的な学び

生産者や農協関係者にインタビューをしたり、農業高校の生徒と意見交流を重ねたりする中で、多様な他者の考え方に触れ、意見を参考にしながら自分の考えを深めて探究課題に向かう

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
遠隔交流 情報共有	オンライン会議	Google Meet Google Classroom	
二次元コードを活用したアンケート	アンケート結果の確認	Google Forms 二次元コード作成サイト	
インタビューの記録 インタビュー内容の要約	インタビュー、振り返り	音声認識アプリ、ビデオ通話 アプリ、生成AI	

## 4 本時の学習展開（9時間／全15時間）

1 本時の目標と単元における本時の扱いの確認

2 インタビュー活動

3 インタビューを振り返り、生徒同士で感じたことと地域のニーズの共有

4 本時の振り返りと次時に向けて

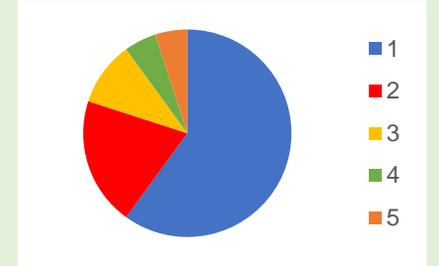
○ ICTを活用しながら関係者にインタビューをする。

・ GoogleFormsを活用し、意見をグラフ化して他者の意見や傾向、差異を理解する。

・ 音声認識アプリやビデオ通話アプリを活用して文字や動画でインタビューを記録し、振り返ることで、他者の意見や考え方を理解する。

・ 生成AIを活用し、インタビューの内容を要約したものを基に、他者の意見や考え方を理解する。

### 協働的な学び





### 1 単元（題材）の目標及び指導計画

- (1) 音色やリズムと曲想との関わりに気づき、楽器で表現する技能を身に付けることができる。
- (2) 表現を工夫することや音の違いが生み出すよさを味わって聴くことができる。
- (3) 様々な音楽にみられる打楽器の音色に親しみながら、表現や鑑賞に取り組もうとしている。

時間	学習活動	主な内容
1-2	いろいろな音を見つけて鳴らす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な演奏の仕方を試し、身近な楽器からいろいろな音を見つける。</li> </ul>
3	好きな楽器を選んで鳴らす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見つけた音を教師と発表し合う。</li> <li>・ 曲に合わせてリズムや音色を自由に演奏する。</li> </ul>
4-7	絵から思い浮かべてリズムをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵から想像する楽器の音を鳴らす。</li> <li>・ 他学年の楽器演奏を音やリズムに気を付けて聴く。</li> <li>・ 音の鳴らし方や組み合わせ方の工夫を考える。</li> </ul>
8	つくった音楽を発表する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つくった音を発表し、他者と感想を交流し合う。</li> </ul>

#### 単元構成の工夫

身体の動きの状態等を考慮し、導入の体験活動に時間を多く配当。

自信を高め、楽しさを味わえるよう、自分と他者との音色の違いに気づき、表現を工夫して発表する活動を繰り返し設定。

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

音色の違いを表現する活動を通して、工夫して表現する方法を児童が自ら選択する経験を重ね、自分の好きな音を見つけることや自身の身体の状態に応じた演奏の仕方について、主体的に取り組み、考えを深める。



### 協働的な学び

タブレット端末の録画や再生機能を活用し、自分と他者の演奏の比較を繰り返し、新たな音色や表現の違いに気づき、工夫して表現する楽しさや気付いたことを伝え合う意欲を高める。

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
様々な楽器から音を探す	自分で音を鳴らす	音楽制作アプリ	
振り返り	楽器の音色を知る 振り返り	カメラ	

## 4 本時の学習展開（6時間／全8時間）

1 本時のめあてを確認する

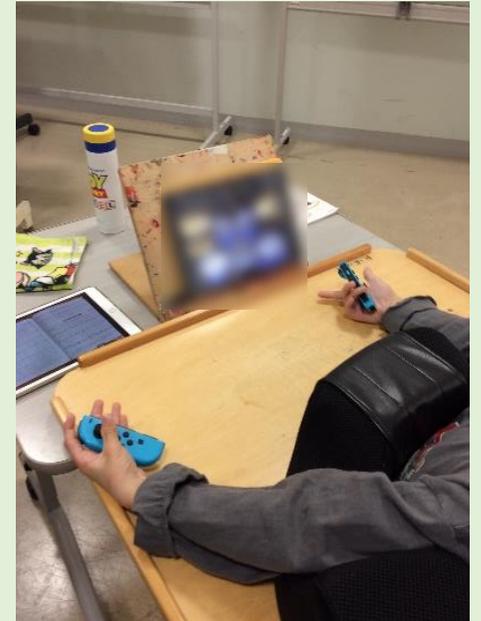
2 前時に録画した演奏を再生し、自分の表現との違いを整理する。

3 楽器の音の違いや鳴らし方に注目し、見つけた音を組み合わせ、教師と表現し合う。

4 本時の学習を振り返る

協働的な学び

- ① 他学年の児童の演奏を動画再生し、リズムや音の組み合わせに注目し、気付いたことを教師と振り返る。
- ② 実際に楽器を鳴らすほか、タブレット端末のアプリケーションを用いるなど、音の組み合わせを表現する方法を自分で選択し、発表する。





### 1 単元（題材）の目標及び指導計画

- (1) 自分たちの身近な人との関わりを通して、地域で生活をしたり、働いたりしている人々と自分たちの生活との関わりに気付くことができる。
- (2) 地域で生活をしたり、働いたりしている人々の生活の様子や、伝えたいことをまとめることができる。
- (3) 地域の人々と関わる活動を通し、地域の人々に親しみや愛着をもち、自ら関わろうとしたり、適切に関わったりする。

#### 単元構成の工夫

事前に、児童個々の関心に合わせたグループによる話し合い活動を設定し、探検の役割等を決め期待感を高める。

自分でまとめた、町探検の成果をもとに発表・交流を行い、他の児童からの意見や質問をもとに、自分の考えを深められるようにする。

時間	学習活動	主な内容
1-3	町探検の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 探検に行きたい場所や話してみたい人、聞きたいことを話し合い、グループに分かれる。</li> <li>・ グループごとに、探検の順路や持ち物、知りたいことを考え、まとめる。</li> </ul>
4-6	町探検に出掛ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループごとに、事前に計画した事柄を確認する。</li> <li>・ グループごとに、町の探検に出かける。</li> </ul>
7-8	町探検の成果をまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 探検で見つけたことを、グループ内で整理し、まとめ、全体で紹介をし合う。</li> </ul>
9-10	まとめたものの交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 探検で分からなかったことや、友達の気付きをもとに、探検をした場所などについて、深めていく。</li> </ul>

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

町探検に参加することを通して、自分に身近な地域の人々の生活の様子に気付き、もっと知りたい、深めたいことを表現しながら、体調や病状に応じた、町探検の参加の仕方について児童が自己選択をし、主体的に学習に取り組むことができるようにする。



### 協働的な学び

新たな気付きを見出すため、児童同士が体験を通し、共に意見や感想を表現し合い、親しみを感じながらより主体的に身近な生活と関わっていくことができるようにする。

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
遠隔会議システムを用いた参加	町探検の際に、病状や体調に合わせて教室から参加する	Zoom	
町探検や社会見学の疑似体験	事前に撮影・作成した360度画像を見て、見学をする。	THETA	

## 4 本時の学習展開（4～6時間／全10時間）

個別最適な学び

- 1 前時で共有した、探検の目的地や順路、約束、持ち物、役割を確認する。
- 2 グループ毎に町探検に行く。
- 3 どのような生活の様子が気になったか、約束を守れたかなど、発表に向けた考えの整理をする。

○出掛けている同グループの児童と対話をしながら町探検に参加するため、ZoomなどのWeb会議システムを活用します。



○より主体的に町探検に参加するために、遠隔操作ができるテレプレゼンスロボットを活用します。



○当日の欠席等による学習の空白を補うために、VRゴーグルを活用して、事前に撮影・作成した町の様子を見学します。





## 1 単元（題材）の目標及び指導計画

- (1) 遠足で経験したことを言葉で表現したり伝え合ったりすることを通して、いろいろな語句や文の表現を知る
- (2) 遠足で経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えることができる  
遠足で経験したことのおおよそやその際の気持ちなどについて当てはまる言葉を探し、表現できる
- (3) 言葉がもつよさを感じ、思いや考えを伝えようとする

### 単元構成の工夫

行事「遠足」の直後に題材を設定し、児童が伝えたいと思える題材配列の工夫をする。

時間	題材	主な内容
1	遠足の振り返り	・ 遠足の思い出を振り返る
2-3	↓	・ 遠足の思い出で、下級生に伝えたい内容を考える ・ 下級生に伝える内容を言葉でまとめる
4		・ 分かりやすい発表に向けて、順番や時間などを調整する ・ 発表に向けた練習をする
5		・ 遠足の思い出を学級で発表する

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

- ② 「いつ」「どこで」「誰と」「どうした」「どう思った」などの型にはめて考える、伝えたい内容を中心に、その時の出来事や状況、気持ちなどをつなげて考える、たくさんの写真を見ながら「これは・・・している写真です」等、短い言葉で当てはまる表現を考えるなど、ICTの活用を含めて自分が得意な方法で伝えたいことを考える。



### 協働的な学び

- ① 児童が教師や他児と一緒に写真を見ながら遠足について振り返り、互いに出来事やその時の気持ちを発言したり言葉を可視化したりして共有することにより、様々な言葉があることについて理解を深める。
- ③ 下級生に分かりやすく伝えることを目指して、発表する順番や発表する内容の分量などを調整する。

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
写真や動画を選ぶ	発表する内容の選定	写真（アルバム） スクリーンショット機能	
言葉に表す、言葉や絵を選ぶ 言葉を並べて文を考える	具体的な言葉の選定 文の作成	プレゼンテーションソフト ロイロノート・スクール	

## 4 本時の学習展開（1～3時間／全6時間）

個別最適な学び

協働的な学び

① 単元の目標を知り、学習への見通しをもつ

② 本時の課題（めあて）の確認

③ 教師や他見と一緒に遠足の思い出を振り返る

④ 遠足の思い出の中から下級生に伝えたい内容を考える

○ 児童が教師や他見と一緒に写真を見ながら遠足について振り返り、互いに出来事やその時の気持ちを発言したり言葉を可視化したりして共有する。



○ 「誰と」「どこで」「何を」「どうした」「どう思った」等の型にはめて、伝えたい内容を考える。



○ 伝えたい内容を中心に、その時の出来事や状況、気持ちなどをつなげて考える。



○ たくさんの写真を見ながら「これは・・・している写真です」等、短い言葉で当てはまる表現を考える。



# 事例9 自閉症・情緒障がい（小学校 特別支援学級 第5学年）

## 算数科「測定値の平均」



本事例の解説動画

### 1 単元（題材）の目標及び指導計画

- (1) 平均の意味について理解し、測定したデータから平均を求めることができる
- (2) 測定した結果を平均する方法について考察し、図や式などの数学的表現を用いて表現するとともに、それを日常生活に生かすことができる
- (3) 測定した結果を平均する方法について考えた過程や結果を振り返り、生活や学習に活用しようとしている

時間	学習活動	主な内容
1-2	測定値を平均する考え方	• 様々な方法を通して、平均の考え方を理解
3-4	平均の求め方と全体量の予測	• 平均の求め方の考察 • 平均を使った全体量の予測
5	0がある場合の平均	• 測定値に0がある場合の平均の求め方の理解
6	信頼できる値の求め方	• 信頼できる値の求め方の理解
7	まとめ	• 生活場面から題材を選択し、平均の考え方をういて様々な値を考察し、発表

### 単元構成の工夫

自分の理解しやすい方法で、学習で活用する言葉「平均」と身の回りの事象を結び付けられるよう、導入の時数を設定

平均の考え方を、生活や他の学習に活用できるように、「まとめ」の時数を設定

## 2 単元（題材）の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### 個別最適な学び

教科書や動画などの視覚的な情報を活用した学び、積み木などの具体物を実際に操作する体験的な学びなどから、自分に合った学び方を選択し実践する過程を通して、「平均」の考え方を理解する。



### 協働的な学び

個別に様々な活動を通して理解した「平均」の基本的な考え方を生かして課題に取り組み、気付いたことや考えたこと等を言語化し児童同士が共有することで理解を深める。

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
学習において活用する言葉の意味の理解	教師による教材の提示	プレゼンテーションソフト	
平均の求め方やデータ収集	調査活動 思考を深める個別の学習	デジタル教科書	
発表&共有	平均の求め方や算出結果の交流	ロイロノート・スクール	

## 4 本時の学習展開（1～2時間／全7時間）

① 本時と単元の目標を知り、  
学習への見通しをもつ

② 「平均」を求める必要性を  
理解

③ 様々な活動から自分で学び  
やすいものを選択し、繰り返  
したり組合せたりして  
「平均」意味を考察

④ 発展的な課題に取り組む中  
で、平均の考え方について、  
気付いたことを交流

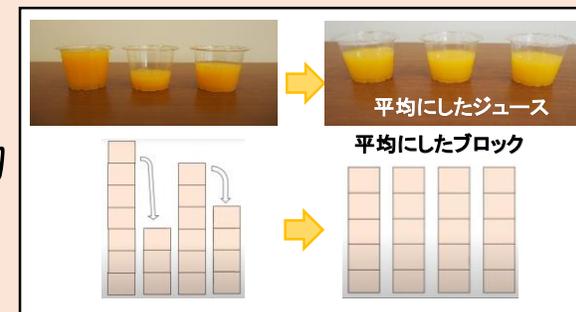
⑤ 適応問題に取り組み、「平  
均」の意味を理解していこ  
とを確認

個別最適な学び

協働的な学び

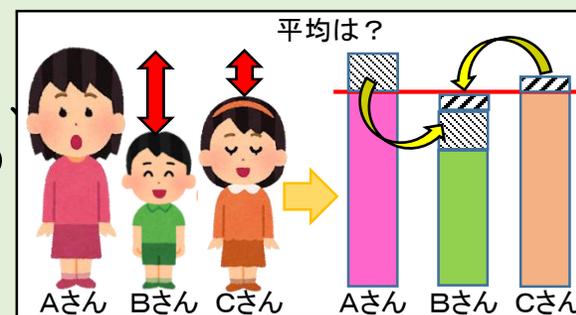
### ○ 操作可能な数量の平均

異なる数の積木や異なる量のジュース  
などを実際に「ならす」体験をしたり動  
画を視聴したりして、「平均」の意味を  
考える。



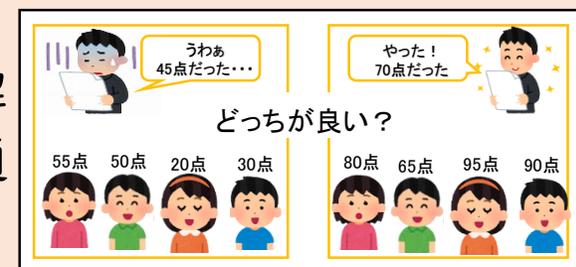
### ○ 操作できない数量の平均

操作可能な数量の平均の考えを用いて、  
学級全員の身長など操作できない数量の  
平均を考える。



### ○ 適応問題

個別最適な学びと協働的な学びで理解  
を深めた「平均」の考え方を  
用いて、適応問題に取り組む。





1 児童Aの実態や自立活動の指導目標等について

<p>実 態</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 力行からタ行、ガ行からダ行への置換が一貫した発音の誤りとして見られる</li> <li>・ 置換が見られる語音を中心に、聞き間違いや書き間違いが見られる</li> <li>・ 意欲的に口の体操を行うが、人に見られていると照れてしまい頬や口の動きが小さくなる</li> <li>・ 通級による指導の時間や家庭では、大人を相手に自ら話し掛ける様子が見られる</li> <li>・ 自分の発音の誤りを自覚していることに加え、友達などから指摘されることもあるため、学級の中では、自ら話し掛けることをためらう様子が見られる</li> </ul>		
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語音の弁別に課題が見られ、それによる聞き間違いや書き間違いが生じている</li> <li>・ 特定の語音について、誤った発音が定着している</li> </ul>		
<p>指導目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音の聴覚的な認知力を高め、正確な語音弁別につなげる</li> <li>・ 構音器官の運動機能を高めるとともに、正しい構音運動の仕方を身に付ける</li> </ul>		
<p>指導内容 コミュニケーション(1)(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しい音と誤った音の違いを比較し、判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 力行音の適切な構音の仕方を理解し、正しい構音動作を身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しく話す経験を通して、コミュニケーションの意欲を高める</li> </ul>

## 2 通級による指導と通常の学級での指導の関連

### 通級による指導

#### 自ら課題を選択して取り組む語音弁別

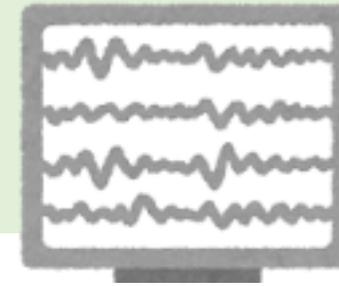
- 2音節、語頭音にある目的となる音と誤った音とを聞き分ける学習を行った（正誤弁別）
- タブレット端末アプリで苦手とする語音を選択したり、自ら繰り返したりできるようにした。
- 遊びやゲームの要素を取り入れながら、意欲的に取り組んだ



### 通常の学級

#### 発音や話し方の振り返りのための録音

- 振り返りができるように、音声録音機能で録音したり、音声認識ソフトを活用したりしながら、自分の発音や話し方を録音した（比較・照合）



## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど
語音の弁別 発音練習全般	通級指導教室 家庭学習	・発音やことばの学習を支援するアプリ
発音や話し方の確認	通常の学級 通級指導教室	・音声録音機能 ・音声認識ソフト

# 事例Ⅰ 学習障がい（小学校 通級による指導 第4学年）

## 「漢字を書くことが苦手な児童に対する家庭学習の指導」



本事例の解説動画

### Ⅰ 児童Bの実態や自立活動の指導目標等について

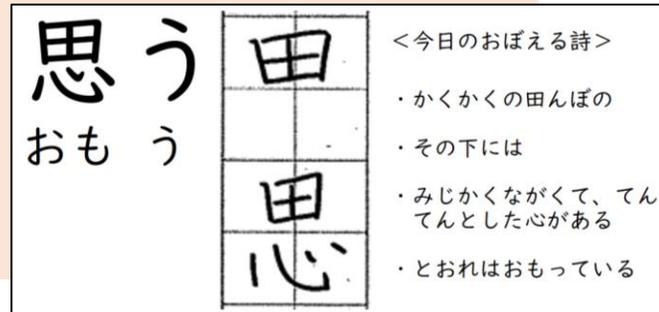
<p><b>実態</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の形を覚えることが難しく、速く正確に漢字を書くことが苦手である</li> <li>書けない漢字でも、読んだり、視写したりすることはできる漢字がある</li> </ul> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【検査等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心理検査において、視覚情報の短期・長期記憶に苦手さが見られた</li> <li>読み書きの検査において、書き速度が学年平均よりも顕著に遅い結果であった</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習で、長い時間をかけて漢字を書く学習に取り組んでいるが、漢字テストの点数にはつながっていない</li> <li>最近、母親に「今日は、家庭学習をやりたくない。」と泣いて訴える様子が見られている</li> </ul>		
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の学習方法で漢字の形を覚えることに困難が見られ、学習への意欲が低下している</li> <li>家庭学習に自分から取り組むことに強いストレスを感じるようになっている</li> </ul>		
<p><b>指導目標</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな漢字の学習方法を理解し、自分で選択することができる</li> <li>自分で学習方法や量を選択して、家庭学習に取り組むことができる</li> </ul>		
<p><b>指導内容</b> 環境の把握 (2)(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな漢字の学習方法を試す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分に取り組める家庭学習の方法や量を選択する (選択後、学級担任と相談する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習で試した学習方法の結果を振り返る</li> </ul>

## 2 通級による指導と通常の学級での指導の関連

※本事例は家庭との連携を含む

### 通級による指導

- タブレット端末を使った漢字の書き順の言語化
- 自分が見やすい大きさに漢字を拡大して、漢字の書き順を言語化して覚えた
- 楽しみながら学習できるように、児童自身の言葉で書き順の言語化を行った
- 映像と音声で書き順が示されるアプリを活用し、書き順を確認した



### 国語科

- 漢字テストの不安を軽減するため、テストの出題範囲を事前に聞き、自分の覚えやすい漢字を選んで先に覚えるなど、計画的に漢字を覚えた

### 家庭学習

- 学級担任と家庭学習の方法を確認し、「○回以上ノートに書く」という宿題から、「漢字の形を言葉でタブレット端末に入力」する宿題に変更した

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
漢字を拡大して形を確認する 書き順や線の形を確認する	通級指導教室 家庭学習	デジタル教科書	
言語化した漢字を表にしてまとめる	通級指導教室 家庭学習	プレゼンテーションソフト	

# 事例12 注意欠陥多動性障がい（小学校 通級による指導 第5学年） 「発言をコントロールすることが苦手な児童への指導」



本事例の解説動画

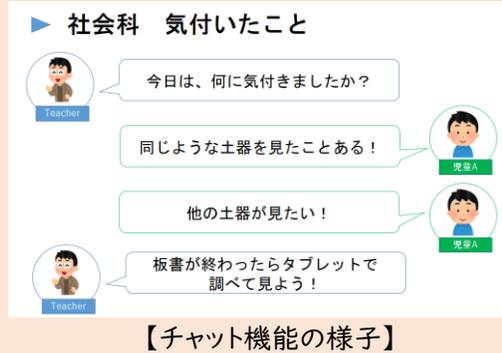
## 1 児童Cの実態や自立活動の指導目標等について

<p><b>実態</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が好きな社会科において、毎時間、気付いたことを衝動的に発言する様子が見られる</li> <li>・周囲が指摘すると、一度は話さなくなるが、すぐ衝動的に発言を繰り返す</li> </ul> <p>【検査等】・心理検査において、個人内差として、低い処理速度指標と高い知覚推理指標の間に有意な差が見られた。また、短期記憶の苦手さが見られた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科に対する学習意欲が高く、Cさん自身は衝動的に発言している自覚はないため、周囲からの指摘に「自分は嫌われている。」と落ち込む様子が見られている</li> </ul>		
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心が高いものを見ると、場面に関係なく衝動的に発言をする</li> <li>・学級担任と事前に確認した約束事を忘れてしまい、同じ行動を繰り返す</li> </ul>		
<p><b>指導目標</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が話したいことがあっても、場面に応じて発言をコントロールする</li> <li>・事前に確認した約束事を自分で意識したり、確認したりしながら活動に参加する</li> </ul>		
<p><b>指導内容</b> 人間関係の形成(3)など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面に応じた相手への伝え方を考え、自分で伝え方を工夫する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が発言したいときのいろいろな伝え方を身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動での約束事を事前にメモ等にまとめ、活動後に振り返る</li> </ul>

## 2 通級による指導と通常の学級での指導の関連

### 通級による指導

- タブレット端末のチャット機能を用いた発信
- タブレット端末のチャット機能を用いて、メッセージを伝えるやりとりを学んだ
- 実際に社会科の授業中にチャット機能を使うことで、チャット機能の長所と短所を確認しながら、授業の活用に向けた改善を行った



### 社会科

学級担任の説明中に自分が気になったことや気付いたことは、チャット機能で伝えることにした

※学級では、児童Cさん以外の児童についても、気になったことはチャット機能で学級担任あてにメッセージを送ってよいことをルールとして確認した

### その他

コメントの履歴が残るため、学級担任の反応を待つことができるようになった

## 3 ICTの効果的な活用

内容	活用場面	アプリなど	二次元コード
自分が気になったことや気付いたことを伝える	通級指導教室 社会科の授業など	チャット機能	
チャット機能の長所と短所を表でまとめる	通級指導教室	プレゼンテーションソフト	

# 第3章 資料

「お月見」



特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領	文部科学省	2017	
「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）	文部科学省	2021	
学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料	文部科学省	2021	
Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ	内閣府	2022	
令和6年度小・中学校教育課程改善の手引	北海道 教育委員会	2024	
令和6年度高等学校教育課程編成・実施の手引	北海道 教育委員会	2024	

令和2年度教育課程編成の手引	北海道教育委員会 特別支援教育課	2020	
令和3年度教育課程編成の手引	北海道教育委員会 特別支援教育課	2021	
令和4年度教育課程編成の手引	北海道教育委員会 特別支援教育課	2022	
令和5年度教育課程改善の手引	北海道教育委員会 特別支援教育課	2023	

# 執筆者及び執筆協力者

## 【北海道教育庁学校教育局特別支援教育課】

山内 功	吉田 卓郎	坂内 仁	但田 寛和
檜山 正太	林部 直人	高石 純	

## 【北海道立特別支援教育センター】

視覚障がい教育室	迎 晶子	山田 剛 弥	
聴覚・言語障害教育室	深町 友祐	宮町 悦信	
知的障がい教育室	岡森 博宣	荒井 美聡	小幡 史門
肢体不自由・病弱教育室	大西 修	西山 雄基	
自閉症・情緒障がい教育室	日小田 泰昭	山口 智也	
発達障がい教育室	奥田 裕幸	（現:北海道真駒内養護学校） 櫻井 香里	

北海道札幌視覚支援学校	蛭谷 英樹	北海道釧路鶴野支援学校	山川 ゆき
北海道苫小牧支援学校	宮下 博一	北海道中札内高等養護学校	渡部 一博
北海道拓北養護学校	藤原 裕美	北海道手稲養護学校三角山分校	増田 望
北海道室蘭養護学校	和田 悟	札幌市教育委員会学校教育部学びの支援担当課	工藤 雅文

# 作品の掲載協力

## 【北海道平取養護学校の皆さん】

表紙（スライド1）	中学部第2学年	西村風輝さん	「あじさい」
	中学部第3学年	橋場和奏さん	「ひまわり」
まえがき（スライド2）	小学部第4学年	布施佑樹さん	「三日月」
	中学部第3学年	川上好誠さん	「靴」
第1章（スライド5）	中学部第3学年	佐々木晟空さん	「桜」
第2章（スライド18）	小学部第5学年	佐藤有さん	「わたしの顔」（左）
	小学部第6学年	黒田徠仁さん	「わたしの顔」（右）
第3章（スライド54）	小学部第1学年	久米佑弥さん	「お月見」（左）
	小学部第1学年	高畑寿吏さん	「お月見」（右）

令和6年度特別支援教育教育課程改善の手引

令和6年（2024年）12月発行

編集・発行 北海道教育庁学校教育局特別支援教育課

北海道札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館8階



HOKKAIDO  
BOARD OF  
EDUCATION